

《巻頭言》

第14回日本禁煙学会学術総会を開催するにあたって 全ての人にTobacco-freeな未来を！ ～福島からの発信～

第14回日本禁煙学会学術総会実行委員長、日本禁煙学会理事、
いわき市医師会副会長、みちや内科胃腸科理事長

齊藤道也

この度、佐藤武寿福島県医師会長のもとで開催される第14回日本禁煙学会学術総会（以下、福島大会 <http://www.tohoku-kyoritz.jp/jstc2020/>）の実行委員長を仰せつかりました齊藤道也です。第11回学術総会が京都で開催された折、「いやー、なかなかの盛会で、素晴らしいプログラムだな、こんな世界的観光地は参加者も集まりやすいのかなー」などと考えながら、そろそろ帰ろうかと思っていたところに打診を受けたと記憶しております。2020年オリンピック・パラリンピックの年だなど漠然と思いながら早速持ち帰り、地域の同志、いわき市医師会の役員諸氏にご相談し、多くの皆さんに開催の賛同、後押しをいただきました。一昨年から実行委員会を立ち上げ現在も鋭意準備中であります。本来ならば、福島の立地や前年第13回開催が山形市であり、オリンピックイヤーのため、大都市圏開催が困難な状況でなければ福島県郡山市での開催はなかったかなと思います。急な決定のため、その準備は通常より組織作りが急務で困難でもありました。しかし、葉タバコ栽培農家南東北三県の事務所のある福島県、他の地域より喫煙率が高く、受動喫煙防止意識の低いこの地で福島大会を開催する意義は大きいものがあります。

なぜ福島で今、禁煙、受動喫煙対策活動なのか

- ① タバコは乳児から高齢者まで非常に多くの疾病に深く関与し、毎年、能動喫煙で13万人、受動喫煙で1万5千人が命を落としています。
- ② 2015年度のタバコによる逸失利益は4兆円以上に及ぶとされ、国民全体に及ぶ社会問題として捉える必要があります。
- ③ オリパライヤー、改正健康増進法の施行年である2020年は国際社会の一員として受動喫煙を

さらに減らすことが求められています。

- ④ 加熱式タバコの爆発的流行、強固な禁煙困難者の存在、喫煙者の8割以上が10代からの喫煙を開始する現状を打破するための医療者側からの継続的アプローチが必要です。
- ⑤ 福島県の疾病死亡率は心筋梗塞、脳梗塞など喫煙を背景とした動脈硬化性疾患、がんは男女ともに全国でも最上位です。
- ⑥ 福島県の喫煙率は全国4位と高く、県民の健康管理のためにもタバコ対策は県内医療に関わる喫緊の問題のひとつと考えられます。

⑤、⑥は恥ずかしながらも福島県の現状であり、この6項目を常に行政、県内各団体、市民にむけて発信し続けています。佐藤武寿福島県医師会長と粘り強く各組織に働きかけた結果、福島県医師会を始め、県歯科医師会、県薬剤師会、県看護協会、全ての県内郡市医師会が共催となり、物心両面からの強力なバックアップを得ることができました。これも禁煙学会が今まで理念を見失うことなく活動をしっかりと継続してきたことが評価されていることでもあり、作田理事長をはじめ、諸先輩、先生方に深く感謝申し上げる次第です。

今回の学術総会は『全ての人にTobacco-freeな未来を！～福島からの発信～』をテーマに掲げております。全ての人に込められた想いは、タバコを吸う方はある意味被害者であり、切り捨て、敵視することなく我々学会と国の未来、自分の将来に向き合えるそんなプログラム、内容を考えております。このご案内を執筆している現状では細かな内容には言及することができませんが、県内の看護学生による禁煙外来教育コンテストなど福島県ならではの企画を準備しております。

また、今年2020年は改正健康増進法の全面施

行の年でもあり、受動喫煙防止の意思表示のイメージカラー、イエローグリーンを用いて医療関係者はもちろん、県民のTobacco-free意識向上のため、福島県医師会とタイアップし、イエローグリーンリボンバッジ作成配布、実行委員会としてイエローグリーンリストバンド作成配布を進めています。また、5月31日World No Tobacco Dayと福島大会開催期間中県内各所のランドマークとなる鉄塔、電波塔、煙突をはじめ事業所、診療所、施設、家庭どこにおいてもイエローグリーンライトアップしていただき、街をイエローグリーンに包もう！というキャンペーンを行う予定です。

ポスターの説明を少しいたしましょう。ポスター上部の近代的な建物が巨大なコンベンションセンター、ビッグパレットふくしまです。福島大会当日は別会場での大きな催事もあり、かなり混雑が予想されます。ポスター中央の背景は開催市郡山市の水瓶で、天鏡湖と呼ばれる透明度も高い猪苗代湖を鬼沼から眺める綺麗な景色です。人物の丸い写真が三つあります。左から「君の名は」「栄冠は君に輝く」「六甲おろし」など作曲は5千曲に及ぶとされる福島市出身の作曲家古関裕而さんです。真ん中は黄熱病の研究の途上で客死された郷里の偉人、野口英世さん、右はスパリゾートハワイアンズのフラガールです。人と人のつながりを大切に、福島大会を開催したい実行委員のそんな想いが人物の写真に現れています。大会キャラクターは目が肺、口が桃の、タバコと戦う『マスクドスワン・ザフクシマ



図2 マスクドスワン・ザフクシマ



図1 第14回日本禁煙学会学術総会のポスター

シマ』、そして参加する皆さんをお迎えする『フラスワンガール』で1月13日からは禁煙のお部屋を多くご用意して宿泊案内もオープンになっています。

Tobacco-freeに対する皆様の熱い想いを、福島の人情と美味しいもの、魅力あるプログラムでお迎えしたいと思います。多く会員の皆様の学会参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

福島でお会いしましょう。



図3 フラスワンガール